

☆「本物の蔦屋重三郎 ～ドラマより凄い江戸の本屋～」 講座の概要☆

○2025 年 10 月 16 日(木)実施

○場所：なるお文化ホール

○出席人数：251 名

○講師：小説家 増田晶文（ますだ まさふみ）先生



講座の概要

今年の NHK 大河ドラマで話題の蔦屋重三郎は、日本で最初の小説家(十返舎一九)や謎の人物画家・写楽の才能を発掘した創造的な人物であり、その創造性に共感して解説していただける講師として、蔦重の関連本を 4 冊も上梓なさっている小説家の増田先生にご登壇をお願いしました。木曜講座担当者のそうした狙いは、みごとに的中

したように考えます。増田先生は、もともと親しみやすい口調でお話が上手な方とお見受けしましたが、蔦重への理解と愛情にあふれたまなざしで、この「江戸のメディア王」の独創性・先見性などを熱をこめてお話なさいました。講座の結びとしまして、増田先生は「蔦屋重三郎は多くのものを産み出したが、彼が自分一人でアイデアをひねり出したものは、ほとんどない。彼は、既存のものをアレンジして新しいものを生み出す天才だった。」(申し訳ありません、増田先生の言葉通りではありません。)という主旨のことをご説明なさいました。

講座の評価

お客様からのご評価は、「本日の講座はお客様が期待するようなものでしたか」という問いに対して「1.あてはまる」が182名(77%)、「2.どちらかといえばあてはまる」が46名(20%)、「3.どちらかといえばあてはまらない」が7名(3%)、「4.あてはまらない」が0名(0%)、評価無記入が16名でした。

「講師の先生のお話がうまい」「大河ドラマを観るのが楽しみになった」といったご感想が多く寄せられました。

一方で、今回は「講師の先生が使用されたホワイトボードの字が小さくて読めなかった」「投影された画像が見にくかった」という意見が複数、寄せられました。ホワイトボードの字につきましては、もう少し太いペンを使うとかである程度の改善の余地はあると思いますが、投影画像につきましては運営側として出来ることは、ほぼありません。ホールの専属スタッフにも再度確認しましたが、投影画像の大きさも解像度

もあれ以上に改善する対処法はありません。それでも「見にくい」とお感じになるならば、なるべく前の方の座席を選ばれるくらいしか選択肢はないと思います。ちなみに、私（木曜講座担当者）は最前列あたりから最後列まで歩きまして、本番時にスクリーンの見え具合を確認していましたが、特段に見えにくいということは感じませんでした。

お客様の声

「鳶重が『江戸のメディア王』と称される意味がよくわかりました。プロジェクターの画像とともに、興味深い語りの数々がとても面白かったです！」

「NHK『べらぼう』を観て、1回では理解できないので毎度2回観て、どうにか内容を理解していたつもりでしたが、今日はさらに詳細な、おもしろい内容を聴講できて良かったです。（中略）聴講者に『あれもこれも伝えよう』という力のこもった話に圧倒されました。」

「本当に楽しみにしていた講座で、本当に嬉しかったです。生まれた日と死んだ日しか分かっていない鳶重が、こうして人生を pick up されるくらい、感性のおもむくままに人を育て、文化を育ててきたことが作品に残っているのも、カッコいいなと思いました。（後略）」

「研究熱心な増田先生の話の半分くらいしか理解できませんでしたが、コツコツと史実を研究されてきたと思われます。話し方は面白く、講演会に慣れているのでしょう。今後、勉強する刺激になりました。」